

# 生涯学習センターまつり

**日時** 10月19日(金)・20日(土)・21日(日)  
9:30～17:00

**場所** 生涯学習センター  
(原町田6-8-1 町田センタービル6～8階)

**問い合わせ** 728-0071

昨年度まで「公民館まつり」として開催してきましたが、4月に生涯学習センターが設立されたのを機に、名称を変えて実施します。このまつりの主役は、生涯学習センターを主に利用し活動している市民サークル・団体の皆さん。ダンス、太鼓、楽器演奏、俳句、絵画など、日頃の成果を披露します。

# 文学館まつり

**日時** 10月28日(日) 9:30～16:00

**場所** 町田市民文学館ことばらんど  
(原町田4-16-17)

**問い合わせ** 739-3420

気軽に手ぶらで参加できるイベント盛りだくさん！  
新たな世界をのぞき見してみませんか…

\*\*\*\*\* 催 事 \*\*\*\*\*

<b>オープニング</b>	和太鼓演奏	<b>終日</b>	文学フリーマーケット町田 三味線ワークショップ 笠着連句・俳句コンテスト 街づくりの会パネル展示 生け花、模擬店 等
<b>午前の部</b>	書道教室 紙芝居		
<b>午後の部</b>	落語、朗読 折り紙教室		

★同時開催「道尾秀介」展 (2階展示室 ※無料)  
【共催】 町田市民文学館・文学館通り商店会・原町田四丁目第二町会・原町田四丁目第二地区街づくりの会



# 来て！見て！楽しんで！

## 自由民権資料館 企画展情報



▲天野佐一郎の肖像画 (天野智氏蔵)

「あるく郷土史家、天野佐一郎  
～一步の出遊、猶楽しむべし～」展

10月6日(土)～11月25日(日)  
9:00～16:30

※休館日:月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は翌日)  
特別休館:9月30日(日)～10月5日(金)

南多摩郡図師村(現町田市図師町)に生まれた郷土史家、天野佐一郎をご存知ですか。  
若き頃には、同郷の自由民権家石阪昌孝にあこがれ、その後は教員として多摩各地の学校を転任、さらには歩く郷土史家として、多摩全域に手跡と足跡を残した天野佐一郎の、人と仕事に光をあてます。

- 第1回 11月11日(日) 14:00～16:00  
**演題** 「小学校校長としての天野佐一郎 一日露戦争期の銃後活動を中心に」  
**講師** 河合 敦氏 (早稲田大学教育学部非常勤講師)
- 第2回 11月23日(祝) 14:00～16:00  
**演題** 「郷土史研究へのまなざし 一天野佐一郎の軌跡をたどる」  
**講師** 保坂 一房氏 (たましん地域文化財団歴史資料室室長)

## 自由民権資料館まつり

**日時** 11月3日(祝)  
10:00～16:00

**場所** 自由民権資料館  
(野津田町897)

**問い合わせ** 734-4508



今年も資料館や町田の歴史について少しでも知っていただければと「資料館まつり」を開催します。  
当日は企画展の他にも、たくさんのイベントを企画中です。ぜひ、資料館に足をお運び下さい。詳細は広報等でお知らせします。

### 連載

## 町田市の文化財をご存知ですか

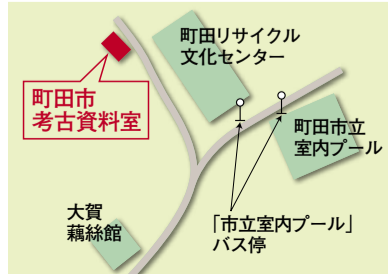
### 第8回 なすな原遺跡の透かし彫り縄文耳飾り



▲透かし彫り耳飾

これらの耳飾りは、今からおよそ2800年前(縄文時代晩期)の素焼きの装身具です。現在、鉄道の車両基地になっている南成瀬8丁目のなすな原遺跡から1978～80年の発掘調査で出土しました。  
直径約4cm、幅約2cm、重さ11～15g、滑車形の片側に透かし彫りを施した装飾文様は「縄文工芸の極致」ともいわれるほど、精密で均整の取れた造形で、鮮やかな赤色顔料が塗られたものもあります。装飾以外は極力薄くして軽量にした実用品で、耳たぶに穴を開けてはめ込む特大のピアス式耳飾りです。同一デザインのものが見当たらないところも大きな特徴です。下記施設の展示コーナーでご覧いただけます。

●町田市考古資料室  
所 在: 下小山田町4016  
開室日: 第2・4土・日曜・祝日  
10:00～16:00  
案 内: 町田バスセンターからバスで市立室内プール下車、徒歩10分  
電 話: 797-9661



### 町田市歴史の二コマ

## 「天野佐一郎の手跡・足跡をたどる」

「目的なき門外一步の出遊、猶楽しむべし、況んや一丘一水も何等かの歴史を語り、到处史跡ならざるはなきに於いてをや」



▲況堂詩鈔

1922(大正9)年発足の八王子史談会の会誌『多麻』に、天野佐一郎がよせた巻頭の一節です。「あるく郷土史家の面目躍如、現代のフィールドワーカーの心意気にも通じる一文ではないでしょうか。」

その天野が晩年、各地を歩くことで培った交友や、たくさんの方の漢詩集『況堂詩鈔』を



▲況堂翁詩碑

でした。天野がこの世を去ったのはその翌年のことでした。「況堂詩鈔」編集に協力し、また、その完成をともに喜びあった友人たちによる記念碑「況堂翁詩碑」が、図師町の天野の生家に残っています。